

ラクスマンの根室来航からはじまった 日露交流の歴史をテーマにした講演会

1792年 日露出合いの地・根室



小市慰霊碑

共にしあわせ産みだす党 日本共産党

市議団ニュース

第1916号 2019年6月9日

日本共産党 根室市議団

根室市宝林町4-203 TEL23-6023

川上教授の解説によると、当時の江戸幕府は中国・朝鮮・オランダ以外の外国との貿易などは制限していたが、まだ法制度として日本は「鎖国」を定めていなかった。通商を求めるロシア使節ラクスマンが来航したことで、幕府は江戸湾が無防備など対外政策の弱点を認識。あわてて鎖国が日本の国法であると「でっち上げて」対応したことを説明していました。その後、1804年のレザノフの長崎来航のあたりで日本の「鎖国体制」が確立したそうです。

相原記者は漂流した大黒屋光太夫のロシアでの足跡を取材しており、講演では実際の現地の様子を写真や動画を交えながら報告。それに川上教授が解説を加えていました。



5月31日、北海道新聞社と根室市教育委員会が共催する市民講座「1792年日露出合いの地・根室」を視聴しました。根室で勤められていた川上淳教授(札幌大学)と相原秀起記者(道新ぶんぶんクラブ事務局長)が、対談形式の講演をされました。

ときわ台公園に展示されている池田良二氏の作品。帆船エカテリーナ号の船首をモチーフにしているそうです。川上教授は、もっと大きな説明表示等も必要ではないかとお話されていました。日本の開国による近代の幕開けはラクスマン来航から始まったと言えるそうです。根室市でもそうした歴史を広く発信したり、市民が学ぶための「工夫」はさらに色々と考えられる、と思います。



歴史の然

ラクスマン一行が根室に8か月間も滞在している間、日本側と様々な交流があったそうです。日本初のスケートをしたり、日本人が作ったロシア語辞典なども紹介されていました。このように、最初の日露交流は平和的に行われましたが、鎖国政策によって次第に武力衝突をするようになります。こうした歴史は今後の日ロ関係を考える時に重要ではないかと相原記者はお話していました。

根室初の「こども食堂」 6月15日に開催



根室市内で初めてとなる「子ども食堂」が開催されるそうです。子ども食堂は孤食や貧困などへの対応としてはじまり、現在さらさらに広く子どもや地域の方々のつながりを深め、地域コミュニティを育てる役割が注目され、全国各地に広まっています。根室市では市民有志の方々から立ち上げた実行委員会が主催し、「じい〜ん こども食堂」という名称で開催されます。第1回目は6月15日(土)11時〜2時まで、根室別院無量寿殿を会場に行われます。料金は、こども100円、大人(高校生以上)300円。15日はカレーライスとフルーツ白玉が、60食限定で提供されるそうです。食事のほか遊びのスペース等もあるそうで、親子や子ども同士、地域の方々も一緒に楽しめる場所になるものと思います。こうした取り組みが、今後さらに市内の各地域でも広がっていくことが期待されます。

6月15日(土) 時間 11:00~14:00
場所 根室別院無量寿殿
問い合わせ先: 0153-22-2115 (担当 社内)
対象: ・子ども、その保護者、高齢者
・小学生以上なら子どもたがでもOKです!

今回の献立
カレーライスとフルーツ白玉

- お申込みは不要です。
- お食事はなくなり次第終了とさせていただきます。(60食)
- 会場にてメニューのアレルギー表示はいたしますが、アレルギーのあるお子さんは保護者の方が当日ご確認をお願いします。

当日は、本物のパトカーの乗車体験や、北海道警察のマスコットはくとくんととの記念写真撮影ができますよ!

こども 100円
おとな 300円

主催: じい〜んこども食堂実行委員会
協賛: 根室警察署

貝殻島コンブ漁 6月10日まで休漁に



今年の貝殻島コンブ漁が6月2日にスタートしました。しかし流水の影響が採取されたコンブはまだ短く、生育が十分のため6月10日まで休漁となりました。しっかりと立派なコンブに育ち、今年は豊漁となることを、多くの市民の皆さんも願っているものと思います。